

2004/2005年の台湾のミナミマグロ漁業のレビュー

序説

台湾は1970年代からミナミマグロ（SBT）を漁獲している。一部は、ミナミマグロを対象とした季節的な漁業により、また一部はビンナガ漁業の混獲種として漁獲されている。ミナミマグロを対象とした季節的な漁業は、主に超低温冷凍庫を装備したはえ縄船によって行われており、6月から9月までと10月から翌年2月までの2期間に、南緯30-35度の海域で操業している。今までのところ、通年の操業は行われていない。2005年の年間総漁獲量の予備的な推定値は903トンで、2004年よりも395トン少ない。2004年に割当量を158トン超過したため、2005年の漁獲制限は982トンに設定された。

事務局による翻訳